

研究 主題	言語活動の充実を図り、多面的・多角的な考えを引き出せる授業を目指して ー自分と他者とのつながりが残る道徳ノートの活用を通してー
----------	--

第3学年道徳科学習指導案

指導月日 令和2年10月7日
 所属校名 石巻市立石巻中学校
 氏名 浅野 伸一郎

- 1 主題名 C－(14) 家族愛 家庭生活の充実
 教材名 「背筋をのばして」（東京書籍 新しい道徳3）

2 主題の目標

父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築こうとする道徳的態度を養う。

3 主題観

学習指導要領「特別の教科 道徳編」では、「生徒の多くは、いずれかの家族の内に出生し、幼児期までは家庭を生活の場の中心として大半をそこで過ごす。家庭は、その後もそこから出かけていき、そこへと戻る安心できるよりどころとなる場所であり、子供を守り育てる教育の場所である」とある。家族は、生徒にとって、かけがえのない存在であり、その家族が生活する家庭は心の居場所であり、生きていく上での原点であると考ええる。

中学生という時期は、家族のさりげない言動から、温かい愛情を感じ取り、安心感や存在感、感謝や尊敬の念を抱く生徒も増えてくる。しかし、一方では自我意識が強くなり、自分の判断や意志のみを貫いて生きていこうとする自立への意欲が高まってくる時期でもある。

また、中学3年生は、義務教育を終え、多くの生徒とその保護者が協力して進路に向き合う大切な時期となるため、本研究では、家族との関わりや家庭における自分自身の在り方について、自分自身と誠実に向き合い、家族への感謝と自己の役割について、深く考えさせる機会となるようこの主題を設定した。

4 生徒の実態〔第3学年3組34名〕

男子16名、女子18名、計34名のクラスである。3年生としての生活が始まって、約5か月が経過した現在、普段の生活や運動会等の行事を通して互いに打ち解け合い、和やかな雰囲気の中、明るく生き生きとした活動が見られる。男女の仲も少しずつ深まり、班活動や清掃活動も協力的に取り組んでいる。道徳の授業では、I期の取組として意図的なペア編成を行い、ペアトークやグループトークの充実を図ってきたこともあり、話し合い活動は活発に行われているが、全体への問いかけや発問の際に反応をする生徒や積極的に挙手をして発言する生徒は、まだまだ一部である。また、自分の意見を持たせるために、自分の考えを道徳ノートに書くことに重点を置いて指導をしてきた。道徳の授業において、道徳ノートの活用の仕方を明確にしたり、道徳ノートの友人や保護者からのメッセージを受け取ったりすることで少しずつ自信を持つことができ、自分の意見を積極的に表現しようとする生徒が増えてきた。しかしながら、依然として書くことを苦手としている生徒（考えは持てるが書けない・考えられない）も未だ見られる。

生徒と保護者の関わりに関するアンケートからは、「親は大切」「いつも気に掛けてくれる」など好意的な意見も多い中、「しつこく感じる時がある」「（親との関わりが）面倒に感じる時がある」などの意見もあり、父母の存在や家庭生活の大切さを理解している生徒もいる反面、保護者との距離がうまくとれない生徒も多い。

5 指導観

本時の道徳的価値「家族愛・家庭生活の充実」を扱うにあたり、「子供の視点だけでなく、家族のそれぞれの立場になって考えられるよう、多面的・多角的に捉えることができるよう指導すること」と学習指導要領に記されている。本時においては、主人公（子供）と父親（親）の立場になって考えられるよう2人のやりとりを役割演技させることで迫りたいと考えている。また、千里の作ったジャケットに一生懸命アイロンをかけている父親の姿から、「親のわが子と思う気持ち（愛情）」を考え、その後のペアトークやグループトークを通し、自分自身もその愛情の中で生きていることを再確認し、家族の一員としてどうあるべきなのかについて考えさせたい。

これまでもペアトークやグループトークがより深い議論となるよう、まずは自分の考えを持つこと（書くこと）を大切にしてきたが、本時でも道徳ノートに自分の考えを書く時間を十分に取し、言語活動の充実を図りながら、本時のねらいに迫りたいと考えている。

また、実際に自分の両親がどのような思いで自分達を見守り、育ててくれているのかを、依頼して書いてもらった「わが子に関するアンケート」を通して、感じてもらいたいと考える。これらのことから、家族への関わりや家族との生活の在り方を十分に考えさせ、家族の中での立場や役割の自覚、特に家族への感謝の気持ちを持って生活していこうとする道徳的態度が育まれることを期待している。

6 研究主題との関連

本研究主題 「言語活動の充実を図り、多面的・多角的な考えを引き出せる授業を目指して
～自分と他者とのつながりが残る道徳ノートの活用を通して～」

(1) 学習指導内容の工夫

I期では、自分の考えを持たせるために、考えやすさを重視した発問を中心に授業づくりを行ったが、発問を具体的にしていまい一つの考え方に導くようなものとなり、生徒の思考を十分に広げることができなかったという反省点があった。そこで、II期の取組としては、発問の抽象度を上げ、より多面的・多角的な考えが引き出せる発問を設定したいと考えている。

また、本校では、道徳の授業でワークシートではなく市販のノートを道徳ノートとして使用している。道徳ノートの活用として、「考えを持つこと」＝「考えを書くこと」として捉え、そのことが「相手に伝えること（発表すること）」につながると考え、段階を踏まえて発展的な学習ができるように継続して活用していきたい。書くことが苦手な生徒には、本時だけでなく、継続的な支援を続けており、書き方の見本を与えたり、しっかりと書いている生徒のノートを見せたりしながら、書くことに対しての苦手意識を取り除き、自分の考えを表現できるようにしている。

生徒の中には、考えることや書くことを苦手としている生徒もあり、そのような生徒の思考の助けとなるよう、1時間の授業の流れや教材の内容、思考の変化（比較・検討）が見えるような板書の構造化を行いたいと考えた。その際、事前アンケートの提示やあらすじの確認などにICTを活用する。

(2) 他者との交流場面の設定と交流方法の工夫

I期の取組では、話し合いは活発に行われたが、考え方が似た者同士のペア（グループ）編成も見られ、話し合いの深まりが十分ではないペア（グループ）があった。I期では、自分の考えを持つことができるという話し合いの土台づくりはできたと考え、II期では、考えが違う者同士のペア（グループ）編成を行い、意図的な座席配置を少しずつ緩めながら進めることにした。

(3) 道徳ノートの活用

道徳ノートの活用は、自分の考えに自信を持つことや相手を認めることにつながっており、II期も継続して行うこととした。また、これまでは授業後に道徳ノートを持ち帰り、保護者からコメントをもらっていたがII期では、「家族愛・家庭生活の充実」をテーマにした授業を行うに当たり、事前に「わが子に関するアンケート」という形で授業づくりに協力してもらうことにした。道徳ノートの活用の発展的な形として捉えており、生徒の道徳的価値の深まりや自信を持つことにつながると考えた。

また、板書の中で生徒自身が必要と思ったことや級友の意見で良いと思ったことは、自分の判断でノートに書き込み、思考を深める一助とするよう指導をした。そのようなノートをグループ内で交換し見合うことで、互いの思考の結果はもちろん、考える過程も知ることができ、多面的・多角的な思考力の向上につながると考えた。道徳ノートの役割には、「自分の考えを持つこと（書くこと）」、ペアやグループ活動を通して「考えること」、コメント記入を通して「他者とつながること」もあると捉えている。道徳性は、徐々に、着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに、長期的視点と根気強い指導が必要であると考え。一つ一つの考えや思いが「残る」こと、そしてこのノートづくりを1年間「積み重ねていくこと」で生徒自身が自分の成長や変化を感じられるのではないかと考えた。

7 本時の計画

(1) 目標

家族の愛情の深さや自分の役割を再確認し、思いやりと感謝の気持ちをもって接していこうという道徳的態度を育てる。

(2) 本時の指導に当たって

本時では、導入時に事前アンケートから「みんなにとって家族とはどんな存在？」について紹介をし、自分の家族関係と級友の家族関係の共通点や相違点に触れながら、本時のテーマ「私にとって家族とは？家族にとって私とは？」につなげたい。

また、千里と父親、両者の立場になって考えられるような場面を設定し、それぞれの立場になって考えたことをもとにペアトークやグループトークを通して、「自分は、今、家族とどのような関わり方をしているのか。自分の関わり方で足りないことはないのだろうか」「自分たちにとって親（家族）とは、どのような存在なのか」について考え、本時のテーマに迫りたいと考えている。

終末では、実際に自分の親がどのような思いで自分たちを見守り、育ててくれているのかを、依頼して書いてもらった「わが子に関するアンケート（記述式）」を通して、実感させたいと考える。アンケートを通して親の真の思いを知ること、家庭への関わりや、家庭生活の在り方について考えさせ、家族の中での立場や役割の自覚、特に感謝の気持ちを持って生活していく道徳的態度を育成していくことにつながると考えている。

(3) 指導過程（別頁）

(4) 評価

家族の愛情の深さや自分の役割を再確認し、思いやりと感謝の気持ちをもって接していこうという道徳的態度を持つことができたか。

（観察・発言内容・道徳ノート）

(5) 教材名 「背筋をのばして」 （東京書籍 新しい道徳3）

(6) 資料のあらすじ

千里（主人公）の両親はクリーニング店を営んでいる。作業に当たる父の姿に千里は幼いころから憧れを抱いていた。「アイロンをかけると、着る人の姿勢も変わる。背筋をのばせば、自然と前を向く。お父さんがしている仕事は、そういう仕事だ」そう言って入学式で着るワンピースにアイロンをかけ千里を送り出してくれた。千里は当然のように、父の仕事を「将来の夢」と呼ぶようになった。高校に入ったころ、千里の夢は、服を洗うことから作る（デザイナー）に変わっていた。3年生の秋、初めてそのことを両親に告げると、父親は「クリーニング屋になるんじゃないのか」「・・・好きにきなさい」と言い、千里の心の中には、やり場のない気持ちがふくれあがっていた。上京前日の夜。千里は、翌日着ていくはずだった自作のジャケットがないことに気付き、あわてて探していると、作業場に明かりがついているのが見えた。千里が引かれるように作業場へ行くと、そこには、千里のジャケットに一生懸命アイロンをかけている父の姿があった。「自分で決めた道なんだ。背筋をのばしていきなさい」千里は温かいジャケットを胸に抱き、あふれ出そうになる涙をこらえて何度もうなずいた。

(7) 準備物

教師：大型TV PC

生徒：教科書 道徳ノート

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な指示（◎中心発問）	予想される生徒の反応	支援・指導上の留意点 評価(方法)
導入 5分	1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ ○「みんなにとって家族とは、どんな存在ですか？」 2 課題をつかむ	・うるさい。 ・しつこくて嫌だ。 ・勝手に部屋に入ってくる。 ・自分のことを考えてくれていて、ありがたい。 ・大切な存在。	・本時のねらいについて問題意識を持たせるために、事前アンケートの結果を用いて、自分と級友の家族に対する考えの相違点や共通点を感じさせる。家族への不満を紹介するだけの場にならないようにする。
	今日のテーマ：私にとって家族とは？家族にとって私とは？		
展開 30分	3 本時のテーマについて考える ○教師の資料の範読（幼少期まで）を聞き、話の流れをつかむ。 「この家族ってどんな家族？」 「二人の関係は？」 「みんなは、小学生の頃どうだった？」 ○教師の資料の範読（最後まで）を聞き、話の流れをつかむ。 ○スライドを見て内容を確認する。 「千里が父親の手伝いをするようになったのはなぜ？」 「小学校の頃と夢が変わってきたけど、みんなはどう思う？」 「この頃の父親の気持ちは、どうなのかな？」 「進路希望調査を見た時の父親の気持ちは？」 ○進路希望調査を渡した時の千里と父親の気持ちをつかむために、二人のやり取りを実際に演じる。（役割演技）	・真剣に聞いている。 ・メモや線を引きながら聞いている。 ・とても良い親子関係。 ・仲が良かった。 ・反抗期が始まっていた。 ・デザイナーになるために服のことを知りたかった。 ・自分も同じ。夢は変わるものだと思う。 ・娘はクリーニング屋を継いでくれると信じている。 ・ショック。怒り。 ・2人の気持ちを考えて演じる。 ・あまり2人の気持ちを考えず教科書を棒読みして	・必要に応じて道徳ノートにメモを取ったり、教科書に線を引いたりするよう指示をする。 ・2人の人物像について、スライドを使って確認していく。 ・教科書に書いてあることなので、時間をかけずにテンポよく内容確認を行いながら進めていく。 ・小学生の頃と高校生の頃の親子関係を比較しやすいよう大型テレビに場面スライドを映す。 ・ただ演じるのではなく、2人の気持ちをくみ取りながら演じるよう指示をする。

展開 30分	千里は、どうすればやり場のない思いを残さずにすんだのか？ ＜自分の役割の自覚を確認する発問＞ ※道徳ノート計画参照 出発前夜、千里の上着にクリーニングをかける父親の隣にいるときの千里の気持ちは？ ＜父親への感謝の気持ちを確認する発問＞ ※道徳ノート計画参照 →ペアトーク→グループトーク →発表	しまう。 ・感情的になってしまったので冷静に話せばよかった。 ・お父さんの気持ちを考えればよかった。 ・感謝の気持ち。 ・素直に謝れなかったことへの後悔。 ・ありがとう、絶対頑張る。	・発問と考えをノートに記入するよう指示をする。 ・級友の考えで良いと思ったことはメモを取るようよう指示をする。 家族の愛情の深さや自分の役割を再確認し、思いやりと感謝の気持ちをもって接していこうという道徳的態度を持つことができたか。（観察・発言内容・ノート）
終末 15分	4 自分の生き方について考える ○事前に保護者に依頼して記入してもらっていた「わが子に関するアンケート」を読む。 ◎今日のテーマについて、もう一度振り返って考えてみよう。 ※道徳ノート計画参照 →グループトーク→発表 ○グループ内でノートを交換し、お互いにコメントを記入する。	・集中して読む。 ・照れくさそうに読む。 ・うれしそうに読む。 ・親のありがたさを知った。 ・親に感謝したいと思った。 ・親に大切にされていることを知った。 ・うれしかった。 ・親への感謝の気持ちを持って、生活していきたい。	・自分が読み終えても、まだ読んでいる友達がいるから静かに待つよう指示する。 家族の愛情の深さや自分の役割を再確認し、思いやりと感謝の気持ちをもって接していこうという道徳的態度を持つことができたか。（観察・発言内容・ノート） ・本時の内容と保護者からのアンケートを踏まえ、これからの自分について考えるよう助言する。

(8) 道徳ノート計画

＜左ページ＞ ・黒板に書いた内容を全て書かせるのではなく、主に子供達にじっくりと考えさせたい発問とその考えを記入させる。 ・本人にとって必要なメモ等は自由に記入させる。 ・右ページには、主に本時の振り返りと級友、保護者、担任からのコメントを記入する。 ・持ち帰って、保護者からコメントをもらう。 ・自分の思いだけでなく、他者（級友、保護者、教師）の思いを積み重ねていくことで、価値の深まりにつながると考えている。	＜右ページ＞ 《本人》・本時の振り返り ・感想　・今後の生活に生かしたいこと　等 《級友》 ・コメント 《級友》 ・コメント 《級友》 ・コメント 《保護者》 我が子の成長や頑張りへの称賛、励まし等 《担任》　コメント　励まし等
---	--

(9) 板書計画

今日のテーマ：自分にとって家族とは？家族にとって自分とは？			
<スライド①> 小学校の頃の千里と父親の関係について	Q：やり場のない思いは、なぜ残ったのか？どうすればよかったのか？ ・きちんと話し合えばよかった。 ・応援してもらえるとと思っていたのに、応援してもらえなかったから。 ※家族の一員として、どうあるべきだったのかについて。 →自分の役割を自覚しているか。	・父親の隣にいるときの千里の気持ちは？ ・感謝の気持ち。 ・素直に謝れなかったことへの後悔。 ・ありがとう、絶対頑張る。 ※父親への感謝の気持ちについて考えているか。	<感想> ・家族のありがたさを知った。 ・親に感謝したいと思った。 ・親に大切にされていることを知った。 ・うれしかった。
<スライド②> 高校生の頃の千里と父親の関係について			

※は本時のねらいにつながるもので、生徒から出させたい考え

(10) 大型テレビ 掲示用スライド

<スライド1>		<スライド2>	
小学生の頃 《お父さん》 千里が入学式で着るワンピースにアイロン →ぴんっと背筋をのばして！ とても良い親子関係 《千里》 お父さんのアイロンをかけている姿はカッコいい →将来の夢はクリーニング屋		高校生の頃 《お父さん》 うれしそうに作業の手順を教えていた 親子の気持ちにズレが… 《千里》 お父さんの手伝いを続ける 将来の夢 →クリーニング屋 →デザイナー →言えない	